★　大至急ご返送をお願いします！　①都労連署名　②オリパラの観戦中止を求める決議　③支部大会議案裁決書

全教・都教組
杉並支部ニュース

コロナ感染のリスクを冒してまで強行してよいのか

五輪の学校観戦は中止を

目黒、文京、板橋、武蔵野、三鷹、小平も中止

東京都教職員組合
杉並支部情宣部
２０２１年
６月３０日
第２号
Tel 3399-8719
Fax 3399-3855
支部ホームページ
http://tokyusosuginami.web.fc2.com

急速に広がる中止の動き

緊急事態宣言が解除されても引き続き、まん延防止等重点措置実施区域に指定されている東京は、再び感染が増加し、新たな変異株によるリバウンドが心配されています。

こうした中で、オリンピックパラリンピックの「学校連携観戦」を中止する動きが急速に広がっています。

６月26日の毎日新聞では、多くの競技会場のある千葉、埼玉、神奈川の３県だけでも既に約17万枚分のチケットがキャンセルされ、確保したチケットの６割に当たると報じています。

東京でも、目黒、文京、板橋、武蔵野、三鷹、小平が中止を発表しました。このほかにも更に増えているようです。

中止の最大の理由は子どもの命、安全

中止をする理由はどこでも共通しています。それは、コロナ感染の危険性、熱中症の危険から子どもを守るためということです。そして、その危険性が現実の問題となったら、誰が、どこが責任を取るのかという問題があるからです。しかし、子どもの命、安全に優先するものなど、どこにもあるはずはありません。

武蔵野では別掲のように、市のホームページで極めて具体的にその理由を述べています。

なぜ少ない東京での中止

報道によると、埼玉などで中止が相次ぐようになったのは、オリパラ組織委員会がキャンセルを受け付けるということを県教委から連絡があり、協議した結果だと、教育委員会や校長の声を紹介しています。しかし、東京ではこのような連絡を全く下ろしていないことが分かりました。

職場から中止の声を

都教組杉並支部は、去る5月27日に杉並区教育委員会に対して「学校連携観戦の中止と都教委への中止の働きかけ」を要請しました。

都教組は今、都教委に対して観戦の中止を決断するよう、職場の声を届ける緊急の職場決議の取り組みをしています。

都教委も区教委も、子どもの命と安全を最優先に考え「学校連携観戦」中止を決断するよう、職場から声を上げていきましょう

武蔵野市中止の理由（市のHPから）

東京2020オリンピック・パラリンピック大会の学校連携観戦については、市立小中学校において、小学校第3学年以上の児童生徒の観戦を希望していました。学校連携観戦は、各校の教育課程に位置付けられ、基本的には各校長により実施の可否を判断するものですが、複数の学校が電車に乗車する駅に集合すること、観戦時間に合わせた電車での移動の場合、ラッシュアワーと重なる学校があるため、混雑が避けられず、密による感染リスクが大きくなること、また、電車での移動や学年単位の集団での行動は、駅や電車内、また観戦会場での混雑等が考えられ、行動管理、人流抑制は極めて困難と考えることから、教育委員会として、児童生徒の安全・安心を第一に考え、学校連携観戦を中止といたします。

教職員の優先ワクチン接種が実現

大規模接種会場での接種になりますが、２学期が始まる前まで、区市町村の公立幼稚園から小中高、特別支援学校、非正規職員も含め、すべての教職員とこども関連の区市町村職員、区市町村任用教員も対象となります。

●ワクチンの接種は、本人の意思に基づき希望制です。

●会場は、現時点で未定です。

●詳しくは、区教委からの文書をご覧ください。

支部大会の文書発言から①

▼知人が昨年度、熱い思いをもって教師（正規）になりました。担任として子供や保護者の信頼もあり、一生懸命働いていましたが、体を壊し退職しました。子供とのやり取りはとても楽しいけど、放課後の仕事が多く、いくらやっても終わらないと言っていました。超過勤務、休日も家で仕事に追われ、自分の時間が全くなく、精神的にも追い込まれていきました。

教師の働き方を変えていかなければ（業務を減らす）、良い先生がどんどんやめていくことになります。教育に未来がありません！今いる私達が変えていかなければ…。（今、その方は職を変え、心身ともにおだやかに充実した日々を送っています。）

▼管理職が気分で他者を叱責する場面が多々あり、職場環境が非常に良くない。論理的に正しいことが必ずしも指導として正しいとはいえない場面が多い。まさに管理されているだけの環境に感じる。やりがいを削られ、心理的にも肉体的にも疲弊している職員が多いと感じる。

▼多様な働き方の職種が増えていますが、その方の勤務の細かいことがよくわからない。「年休日数、年休の取り方などなど）職場に一冊でも調べられるものがあるとありがたいです。

【裏面もご覧ください】

2021.6.19（土）　杉並支部「わくわく教研」から

この状況だから……
子どもたちのつながりを考える

講師　井上良江さん

元桃井第五小
体育同志会東京事務局長

井上さんは、現在私立小学校の講師として、１～３年生の音楽を担当しています。毎回学年合同の音楽で55人から70人の子どもたちと向かい合う日々だそうです。

コロナ禍での工夫として

①「ソーシャルディスタンス」だから→「気配」で行こう。
②マスクで顔が見えないから→「和顔愛語」（わげんあいご。「和顔愛語」とは、仏教の言葉で、にこやかな表情と暖かい言葉の意味）
③マスクで顔が見えないから→「相手を全身で感じよう」

このような柱建てで、具体的な実践について紹介されました。

質疑討論では

○　マスクをするようになって、新しい歌を覚えるのが苦手な1年生。九九を覚えらえない2年生。特に4の段7の段。口が見えないので苦労している。だからこそ視覚で捉えられるように絵や歌詞などを今まで以上に丁寧に提示することが必要。1時間の予定や進行状況が、分かるように、かわいいカードで示すなどの工夫が必要。
　子どもたちとの意見交換も、体全体を使ってオーバーに表現することによって、伝わりやすくなる。

○　立ち方…足の裏の気持ちいいところを探して、そこに重心を置いて立つと整った立ち方になる。鼻とおへそをまっすぐに！
　座り方…おしりの2つの骨に10円玉の座布団を敷いて座るといい姿勢になる。

○　声を出してはいけない今は、わらべ歌が有効。ドーンジャンはエアーでやると、スピードコントロールになる。茶摘みやアルプス一万尺もエアーでやると、離れたところの友達、目と目が合った友達とできるのも面白い。マスク生活では、目と目を合わせることを大事にしたい。

○　音送りのゲーム…4～6人のグループで、曲に合わせて、トーンチャイムなどで好きなタイミングで音を送る。受け取った人は次の人に好きなタイミングで送る。つながり合った感じも生まれ、とても気持ちがいい。

○　♫なべなべそこぬけ♫ができないので、10メートルほどの綿ロープを使ってやる方法もある。【実技ををしました】

○　プリントを名前順に出すときの工夫…静かな音楽を流し、「音楽だけ聞いてね！」の指示で行う。「しゃべらないでね」や「〇〇しない！」はNG。

○　不登校の親の会に参加しているが、「言われたことをそのまま、言われたとおりにやる」ことに疑問を持った子が不登校になっているように感じる。「自分で考えて判断して行動できる！」そういう力をつけてほしい。

○　周りのことが考えられない子が多い。気配、距離感が大事だと思う。立つことがうまくできないので、イスを持って寄りかかる子が多い。体のこともやってあげたいが、今の学校はやることが多すぎる。

（感想から）　いいことをたくさん学ばせてもらいました。子どもたちとまっすぐにかかわっていきたい。子どもたちの素敵なところに気づける先生になりたい。子どもたちに「大好きだよ！」って伝えたい。月曜日が楽しみです。

6月19日の教研はZoomを使って開かれました。これからもコロナ禍の中でもできる楽しい教研を計画していきたいと思います。